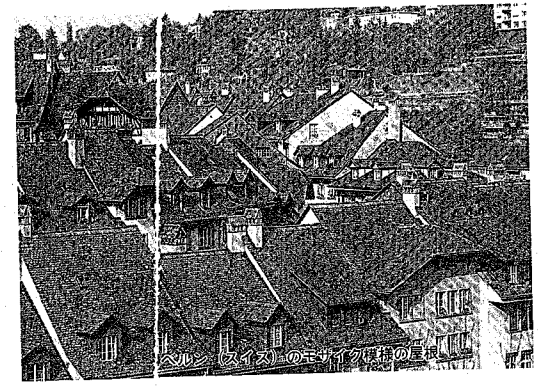
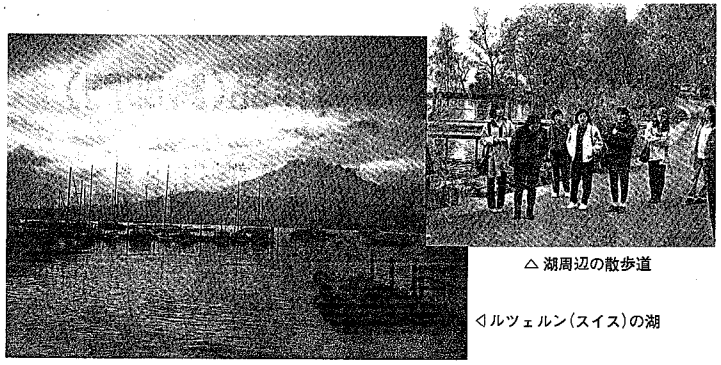
自然との共生を求めて

市民海外派遣研修報告―②

「自然との共生」をテーマにスイスを中心として、市民の海外派遣研修が実施されました。前号に引き続き、参加者のリポートをご紹介します。


ベルン（スイス）のモザイク模様の屋根

岡村さん


△湖周辺の散歩道

◁ルツェルン（スイス）の湖

新津をもっと楽しく、美しく

高橋　ゆかり（善道町2）

研修に参加して、中世の頃からの古いまち並みを大切にし現在もそこに住み続けている人々の姿や、公園が広くまちの中にも街路樹や花などの緑が多いことに感動しました。中でもスイスでは、牧草地をきれいにしておけば補助金がもらえることや、電柱や電線、看板、ごみのポイ捨てがないことなどに感銘を受けました。

色を統一した美しいまち並み

ベルンでは、建物のかわら屋根はモザイク模様のように色とりどりで美しいものでした。これはそのように作ったからではなく、古い所を修繕した結果だと聞き、見習わなくてはと思いました。

ベルンのまち並みを見て、新津市をこんな美しいまちにしたいという夢を持ちました。美しいまち並みには色の統一が大事だと思います。ここではハンバーガーショップも赤や黄色を使えず、まち並みに合わせた店舗を建てています。例えば、新津は花と緑のまちなので、A商店街はサツキのピンクと緑、B商店は水仙の黄色と緑のように落ち着いた色調でテーマカラーを決めて、歩道や看板、アーケードに使用したらどうでしょうか。花壇を作り、雨水も地下に返し、歩道の障害物をなくして車椅子を通りやすくし、夜も太陽光蓄積の街灯で明るく照らし楽しく散歩できるようにしたら、自然と人が集まって来て人々の輪も広がると思います。

スイスではまちの中心に、結婚式やコンサート、会合などができるコミュニティセンターのようなものがあり、とても便利だと思いました。新津もバスセンターが移転したので、本町二番館をバス待ちもできる市民の憩いの場にして、一階は市からのお知らせやサークルの仲間募集、市への要望コーナーにし、二・三階に講習会場やミニホール、プールやアスレチックジムなどのスポーツ施設を設ければ、車の運転ができない人にも気軽に利用してもらえるでしょう。

緑を増やす工夫と努力

スイスでは木を一本切ったら新しい木を植え直さなくてはならないとか、幹の太さが八十センチ以上の木は許可を受けなければ切れないという法律があります。だからこそ工業国でありながら美しい緑を保つことができるのだと思います。

人口六万八千人と新津市とほぼ同規模のルツェルン市で、園芸師が二百人雇われていると聞きとても驚きました。新津市民は園芸好きの人がとても多いので、園芸師を新たに雇わなくても市民一人ひとりが今以上に庭や空き地をきれいにすれば、より美しいまちになると思います。生け垣を作る人には樹木を安価で斡旋するとか、庭で増え過ぎて困っている花木を持ち寄って交換したり、チャリティーで販売したり、空き地に植えたりすれば、緑を簡単に増やしていけると思います。これから家を建てる人には、樹木を五本以上植えることや、花壇を作ること、景観を損ねるような色を使用しないことなどの呼びかけを行うのも有効だと思います。

私も今度こそ国道四〇三号線のチューリップ植えに参加して、新津市をもっときれいにするお手伝いがしたいと思っています。

高橋さん

自然の安らぎ

岡村　知美（本町4）

至る所で木々の緑が建物と調和して目に入ってきて、一般住宅やビルの窓辺におかれたプランターの真っ赤なゼラニウムに目を奪われる。スイスの人たちは「人間は自然の一部であり、共に生きていくものだ」ということをよく理解しているのだなと痛烈に感じさせられる。

文化や伝統が違うとはいえ、同じ時を過ごし生活しているにもかかわらず、まるで時代をさかのぼり全く異質の世界へ連れてこられたかのような感覚に陥る。緑や花にあふれ、昔のままの建築物の中にいるだけで、こんなにも心が安らぎ、ギスギスとした感じのない柔らかいイメージを受けるものかと思う。それは農村部だけでなく、ベルンのような一国の首都であり金融機関の集中したまちにおいてもいえるのだ。

スイスではチューリッヒ、ルツェルン、ベルンを訪れたが、各都市独自のまちの顔を持っているとはいえ、マロニエやプラタナスの街路樹、窓辺のプランター、透きとおるような水の湖や川は共通して見ることができる。

公共空間は大切な財産

現地のガイドさんの話によると、まちの景観を保護するための施策は、洗濯物を地下室に干すこと、アンテナを地下ケーブルで引いて目につかないようにすること、広告塔をまち所有の物とし規制すること、木を切ったらその数だけ植樹しまちの木の全体数を変えないこと、下水道の完備、ごみの規制など、挙げたら切りがないほどであった。

この中で、ごみについて取り上げてみたい。スーパーでは袋をくれなかったり、包装をしないようにしたりしてごみを減らす。家庭では缶や生ごみなどに分別して透明のビニール袋に入れ有料で回収してもらう。公園には、芝生と同じ緑色の小さな箱が設置され、そこには犬の糞を入れる袋が入っている。また、早朝の暗いうちから道路に落ちた街路樹の葉を掃き集めている車を見かけた。国民一人ひとりがごみの問題や環境問題に高い関心を持ち、たゆまぬ努力を重ねることにより、このようにきれいでごみが目に留まらない国が成り立つことが分かった。

私を含めた多くの日本人は、自分の家以外の公共空間を汚すことなど平気であるのに対して、スイスの人たちというのはまったく異なる意識を持っているのだろう。やはり、公共空間も自分たちの財産であるという。一人ひとりの意識が大切なのだ。

何げない風景が一番の思い出

ルツェルンで観光名所も回ったが、何ということのない風景が私の中では一番に思い出される。繁華街から歩いてすぐの湖沿いの散歩道で、芝生があり、ポプラの並木道があり、水辺の鳥たちを見ながら犬の散歩をしている人たちがいる快適な空間である。

人間が求めるのは自然の安らぎであって、そのためには開発の際にも極力自然を残していかなくてはならないし、一方では植樹やプランターを置くなど、積極的に緑化運動を進めなくてはならない。そういった環境の中で育った子どもたちは緑を大切にし、その重要性を理解し、住みよいまちづくりをしていくだろう。川や山という素材に恵まれた新津は、もっと良い環境になるはずなので、できる限り協力していけたらと思う。

お買物、ご用命は市内で

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6―12　TEL(24)5122

健康家族　薬なら新津薬局
保険調剤・ツムラ漢方薬
生薬配合・ツムラ化粧品・ベビー介護用品
新津駅前本店 (24)6311
おぎかわ駅前店 (24)6322

お買物、ご用命は市内で

謹賀新年　快適な暮らしは、快適な水まわりから……
住まいも　いきいき　リフレッシュ！
水まわり増改築専門店
水と住まいのふれ愛
システムショップ かねみや
INAX
本町2丁目1-11 ☎24-1630